

大雪山国立公園の地質学的な魅力

大雪山は、環太平洋火山帯の千島弧に位置する火山活動が活発な地域で、大雪山国立公園のドラマチックな景色は、数千年もの火山活動と地殻活動によって形成されたものです。くすぶる火山、印象的な柱状節理のある渓谷、広大なカルデラなどは、この辺り特有の地理的特徴です。

表大雪のカルデラと火山

公園の北側にある表大雪エリアの中心には、30,000 年前の噴火で形成された直径 2 キロの巨大なお鉢平というカルデラが見られます。大雪火山群として知られる火山群に囲まれています。

旭岳（2,291 m）は、その中で最も標高の高い火山で、傾斜部の噴火口や黄色く光る硫黄鉱床が特徴的です。今も火山活動は続いていて、最近では南東側の傾斜部に小さめの火山（後旭岳）が形成されました。

東大雪のプレートテクトニクスと火山活動

東大雪の山々や地形は、火山活動と地殻プレートの衝突の両方により形成されました。この辺りに広がる、険しく起伏に富んだ石狩山脈は、1,000 万年以上前に始まった地殻プレートの衝突によって形成されたものです。こうした山々は、100 万年前の噴火により形成された盆地、十勝三股カルデラの脇に広がります。現在、この盆地は、針葉樹や広葉樹の深い森で覆われています。丸山

（692 m）は、東大雪で唯一の活火山です。日本では珍しい、噴泉塔と呼ばれるドーム型の鉱床が傾斜部に散らばっていることで知られています。公園のこの辺りで見られる大量の黒曜石から、過去の火山活動の証しが見て取れます。

十勝の火山活動

十勝火山群は、公園の南西部を占めている火山群です。標高が最も高い頂は十勝岳（2,077 m）で、数年にわたって噴火を繰り返してきた活火山です。傾斜部には、さまざまな大きさのクレーターが無数に広がります。

温泉

大雪山エリアには、層雲峡温泉、糠平温泉、十勝岳温泉など、複数の温泉郷があります。この辺りの多くの温泉には、マグネシウム、カルシウム、硫酸塩といった火山性鉱物が含まれています。

柱状節理

層雲峡や天人峡のそびえ立つ崖は、上から見ると蜂の巣の穴のように組み合わさる無数の岩の柱でできていることが分かります。この種の地理構造は柱状節理と呼ばれます。溶岩が異なる速度で冷却することで、岩として凝固する過程で割れ目が形成されます。層雲峡の柱状節理は、およそ 24

キロにわたって延びており、流星の滝や銀河の滝など、ほとぼしる滝が崖の一部をベールで包んでいます。

永久凍土層と風穴

大雪山の気候は非常に寒く、通常なら北極地方で観測されるような現象が起こることがあります。

永久凍土は、その名の通り、永久に凍っている土で、東大雪の一部のエリアでは標高の低い場所でも目にすることができます。最も古いエリアは、およそ 4,000 年前のものと考えられています。永久凍

土は周囲の空気を冷やし、山腹の裂け目を満たします。夏になると、上ってくる暖かい空気が冷たい

空気を押し出します。その割れ目は時間をかけ、風食により裂け目から穴や小さな洞窟へと形を変

えていきます。氷河期から存在する小さな哺乳類、キタナキウサギが、この風穴の中を棲み家としてい

ます。